

## 「棚田米」のブランド形成過程に関する研究

菊地, 稚奈

<https://hdl.handle.net/2324/4784624>

---

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (芸術工学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

氏名	菊地 稚奈			
論文名	「棚田米」のブランド形成過程に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	清須美 匡洋
	副査	九州大学	教授	田上 健一
	副査	九州大学	准教授	朝廣 和夫

### 論文審査の結果の要旨

博士（芸術工学）の学位申請のために提出された本論文は、以下の課題を背景としている。日本における優れた里山景観形成の中核をなす棚田に対する社会課題としての減反政策や中山間地域の過疎化により、ますます失われる事態に対し、現状における棚田の収穫量と労力を考慮すれば、今後の棚田及び棚田米に関しての未来は非常に厳しい。そこで、本研究は棚田保全を支える棚田米販売に着目し、棚田米の付加価値を高めるための棚田米ブランドの特殊性を鑑み、近年の棚田米ブランド化の経緯をトレースし、その付加価値の状況や構造を明らかにするとともに、今後どのようなブランディングの方向性が棚田の持続に効果を発揮しうるかを検証することを目的としている。

本研究は、棚田をめぐる社会的状況を棚田の定義と機能、棚田の評価の変遷、棚田保全への施策という3点からとらえ、棚田米の社会的認知として日本の食料政策やブランド米の発生状況の現状、さらに棚田米という語彙の発生と広がりに関してテキストマイニングを用い、棚田米と販売との結びつきの強さを抽出した。それらを踏まえ、棚田米ブランドにおける付加価値を具体的な道の駅やふるさと返礼品を通して掌握し、ブランド研究によるブランドモデルを活用し、ブランド価値評価として棚田米ブランドについてのワークショップなどを通して形式知化したことは非常に有意義である。さらに結論として、棚田米のブランドは成立しているが、独自の確かな評価に至っていないため、更なるブランド価値向上のための具体的な新たな施策を展開するための指針を提示していることが、今後の研究やブランド強化に対して具体的で意味あるものとなっている。

本論文は、第1章で研究の目的と意義、第2章で棚田の社会的状況、第3章で棚田米の社会的認知、第4章で棚田米ブランドの状況、第5章で棚田米ブランドの価値評価を踏まえ、第6章で棚田米のブランドモデルを形式知化、検証を行い、結論に結びつけた。さらに、今後の課題に関しても明確に示唆している。

このように、本研究は、現状日本の棚田政策、保全活動に対しての融合研究として、今後の新たなアプローチを導出したことは非常に評価できる研究であり、当分野での発展に寄与するものである。よって本論文は博士（芸術工学）の学位に値する。